

サンケイ化学 農薬登録情報

ウッドスター

ジノテフラン液剤

登録番号：農林水産省登録第 23624 号（登録会社：サンケイ化学株式会社）

有効成分：ジノテフラン・・・8.0%

毒性：普通物（毒物、劇物でないものを指している通称）

販売エリア：全国

適用拡大登録取得のお知らせ

弊社登録製品「ウッドスター」は令和元年5月15日付を以て下記の内容で適用拡大いたしました。

【適用病害虫の範囲または使用方法変更の内容】

- ・作物名「さくら」に適用病害虫名「クビアカツヤカミキリ」を追加する。

【適用病害虫名および使用方法（今回の拡大部分のみ表示）】

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
さくら	クビアカツヤカミキリ	注入部直径 6cm～10cm: 8～12mL 10cm～20cm: 12～24mL 20cm～30cm: 24～36mL 30cm～40cm: 36～48mL 40cm～50cm: 48～60mL 50cm～60cm: 60～72mL 以降、直径が10cm増す毎に 12mLを追加する。	新葉展開後～ 落葉前まで	3回以内	樹幹注入	5回以内

【使用上の注意事項の変更等】次ページに記載する。

使用の際は製品に貼付されているラベルを参照して下さい。

※使用上の注意事項の変更部分

8 使用上の注意事項（変更後）

- (1) 他剤との混用はさけること。
- (2) 樹幹の胸高直径または注入部直径が適用表に記載のない小径木や樹勢の弱った木、空洞や腐朽のある木、極端な老齢木には使用をさけること。
- (3) 適用表の小径木に使用する場合は、専用の注入補助器を挿入し使用、若しくは所定量を2孔以上に分散させること。
- (4) 対象木が二股以上に分かれている場合は薬剤が問題なく分散する様にそれぞれ1本の木と見なして所定量を注入すること。
- (5) 薬剤注入孔は、ドリル等を用いて注入部位に斜め下方向に45度の角度で開けること。
- (6) 薬剤の注入部は以下の樹種、適用病害虫によって設定すること。
 - ① 樹木類（つばき類を除く）、さくら、アメリカフウ、プラタナス、ぶなに使用する場合は、主幹部の地上高50~100cmを標準とすること。
 - ② つばき類に使用する場合は、主幹部の地上高10~30cmを標準とすること。
 - ③ クビアカツヤカミキリに使用する場合は、胸高直径により注入量を決定し、注入部位は主幹部の地際部を標準とすること。
 - ④ クビアカツヤカミキリに使用する場合は、すでに被害が認められている樹（多量のフラスが確認されている樹）は薬剤が分散しにくい場合があるので、クビアカツヤカミキリの食入孔をさけ注入すること。
- (7) 薬剤の注入孔（直径・深さ）、注入量は以下の樹種、適用病害虫によって設定すること。
 - ① 樹木類（つばき類を除く）、さくら、アメリカフウに使用する場合は、直径5~10mm、深さ6~7cmの注入を開け、専用注入器を用いて1孔あたり4mLを注入する。なお、注入孔直径10mm未満で使用する場合は、必ず専用の注入補助器を注入孔に挿入し使用すること。
 - ② つばき類のチャドクガ、プラタナスグンバイに使用する場合は、直径5~7mm、深さ6~7cmの注入孔を開け、専用注入器を用いて1孔当たり2mLを注入する。なお、注入孔直径7mm未満で使用する場合は、必ず専用の注入補助器を注入孔に挿入し使用すること。
 - ③ ぶなに使用する場合は、直径5~7mm、深さ3~5cmの注入孔を開け、専用注入器を用いて1孔あたり2mLを注入する。なお、注入直径7mm未満で使用する場合は、必ず専用の注入補助器を注入孔に挿入し使用すること。
- (8) 本剤の使用時期は、以下の樹種、適用病害虫によって設定すること。
 - ① 樹木類（つばき、マツを除く）に使用する場合は、落花直後や展葉初期には薬剤が分散しにくいので、落花終了後の新葉が十分に展葉した後に注入すること。
 - ② 樹木類（マツ）に使用する場合は、注入時期により、樹脂流出による注入不良が発生するおそれがあるので、注入孔を開けたら直ちに薬剤を注入すること。
 - ③ プラタナスに使用する場合は、落葉期や整枝剪定後の展葉初期には薬剤が分散しにくいので、新葉展開後に注入すること。
 - ④ ぶなに使用する場合は、新葉の展開直前に注入することが望ましい。
 - ⑤ ケムシ類、イラガ類、チャドクガ、クビアカツヤカミキリを対象として使用する場合は、幼虫発生前に薬剤を注入することが望ましい。
- (9) 注入孔は癒合剤等で穴を塞ぐなど適切な処理を行うこと。特に地際部で使用した場合は降雨による土壤等の侵入のおそれがあるため、必ず処理を行うこと。
- (10) 本剤を処理した後に得られる花、葉、果実、種子等は食用に供しないこと。
- (11) 本剤を処理した樹木をきのこ類のほだ木など栽培用には使用しないこと。

(12) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。

①開花期はミツバチ等に影響を及ぼすおそれがあるので、落花終了後に使用すること。

②関係機関（都道府県の農業指導部局や広域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係わる情報を提供し、ミツバチの危被害防止に努めること。

(13) 本剤は自動車、壁等の塗装面、大理石や御影石等に薬剤が付着すると変色するおそれがあるので、こぼさないように注意すること。

(14) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は関係機関、関係技術者等の指導を受けること。

(15) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、関係機関、関係技術者等の指導を受けることが望ましい。



本 社	〒891-0122	鹿児島市南栄二丁目9	TEL:(099)268-7588
東 京 本 社	〒110-0005	東京都台東区上野七丁目6-11 第一下谷ビル3F	TEL:(03)3845-7951
大 阪 営 業 所	〒532-0011	大阪市淀川区西中島二丁目14-6 新大阪第2ドイビル3F	TEL:(06)6305-5871
東 京 営 業 部	〒366-0032	埼玉県深谷市幡羅町一丁目13-1	TEL:(048)551-2122
九 州 北 部 営 業 所	〒841-0025	佐賀県鳥栖市曾根崎町1154-3	TEL:(0942)81-3808
宮 崎 事 務 所	〒880-0056	宮崎市神宮東三丁目6-19 山本ビル	TEL:(0985)25-7051